



radio Camnetに続くマガジン版

雲心月性

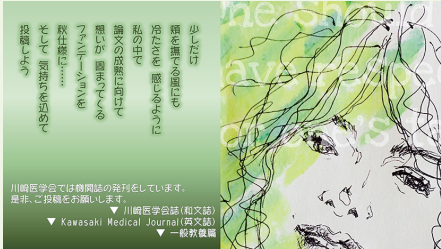
大槻ワールドへようこそ

Camnet マガジンをお楽しみの皆様。マガジン版「雲心月性」です。いかがお過ごしですか？

大槻は川崎医科大学の中の川崎医学会の運営委員長でデジタルサイネージに機関誌への投稿を促すスライドを月の前半2枚、後半2枚で流しています。Ms. Keiko C の描いたイラスト、Ms. Saori T の絵手紙と僕の写真を紹介します。



暑い盛りが過ぎて、少し沈黙者の季節になってきました。



頬を撫でる風が少し冷たさを含み始めました。季節が静かに動いていっています。



萩の花を見付けると、「思案」「内気」「柔軟な精神」という花言葉を思い出します。



そして、秋は寂しさや哀しさが、云い知れず押し寄せてきますが、笑顔一つ、思い出してみましょ。



十月～土佐の高知の国分寺。十月桜が咲いていました。小さな花なんです。



絵手紙で感謝を伝えると、送り主も、受け取りでも微笑につつまれますね。



デュランタは、台湾レンギョウ (台湾連翹) ハリマツリ (針茉莉) とも呼ぶらしいです。「歓迎」が花言葉。



そして、秋も深まり始めると月が大きい。その中で、少女が瞑想の世界で、夢を見続けています。

さて、オリジナル曲の歌詞紹介。「秋の小人たち」は、大槻の作詞作曲です。そして、ネットラジオ版の「雲心月性」10月号では、ピアノ弾き語りでも紹介しています。歌詞を読みながらお楽しみください。

【秋の小人たち】

ミルク色の 朝には 白い馬車に いっぱい
赤と黄色の 絵の具を積んで

秋の小人たち

緑色の 木の葉を ひとつひとつ まわって
秋の模様を 包んであげる
旅に行くところ

ベレー帽子を 小粋にかぶり
絵筆片手に 小人たち
秋風に せきたてられているわ

あなた 早く 着替えて私たちも 行きましょ
白いキャンバス 忘れないね
愛を 描くため

いわし雲の 向こうへ 白い馬車は 飛んでく
森の入口 たり着いたら
そこで 一休み

誰か 歌い出したら 手と手 つなぎ 踊るの
森の奥まで 歌は流れて
みんな 秋の色

ベレー帽子を 小粋にかぶり
絵筆片手に 小人たち
秋風に せきたてられているわ

あなた 早く 着替えて私たちも 行きましょ
白いキャンバス 忘れないね
愛を 描くため

*_**

2 か月分のコラムですので、時事的な話題は避けてしましますが、COVID-19、新しい生活様式の中で、第二波、第三波が来ていないことを祈っています。

プロフィール 大槻 剛巳 (おおつき たけみ)

川崎医科大学衛生学教授
0歳: 京都府福知山市にて生誕
14歳: 京都府中学校陸上競技大会にて100mハードル2位
14歳: KBS近畿放送AMラジオでリスナーの詩として採用
15歳: 倉敷市に転居
15 & 18歳: NHKあなたのメロディー出演
18歳: YAMAHAポプコン全国大会 (譜面の部) 出場
20歳: YAMAHA神戸との連携で楽曲依頼あり
24歳: 川崎医科大学卒業
以降: 川崎医科大学血液内科～衛生学にて診療・研究・教育に従事
1992-1996年: 米国留学 (医学研究)
1996年: 岡山県文学選奨現代詩部門選外秀作として「岡山の文学」に掲載
2009年: Camnet CH-F (10-19) パーソナリティ担当
現在に至る

♪オリジナルCD
プレゼントします!
詳しくは
プレゼントコーナーで